

■米国：米国の2009年CO2排出量は7%減

エネルギー情報局（EIA）は2010年5月5日、化石燃料使用に伴う米国の2009年CO2排出量が54億5百万トンとなり、前年比で7%（4億5百万トン）減少したと発表した。減少したのは最近4年間で3度目となるが、EIAによると、1949年の調査開始以来、今回の減少幅は率、量ともに最大である。減少した理由についてEIAは、1) 重工業部門における深刻な景気低迷、2) サービス産業の比率増、3) 輸送部門の落ち込みと分析している。さらにEIAは、今後のCO2排出量が、景気回復の仕方によって左右されるとの見解を示している。鉄鋼などのエネルギー集約型産業が景気回復を牽引する場合には、サービス産業や軽工業部門が景気回復をリードする場合に比べてCO2排出量が増加すると予測されている。